

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年3月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン・菓子製造業	大きな変化は無いように思うが、確実に経営は悪化している。また学校給食委託事業においても児童数の減少による影響で収入は減っている。ガソリンの値上げも影響しており大変厳しい状況が続いている。
	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月比やや増加したものの、累計ではやや減少となっており先行きが懸念される。
	パン・菓子製造業	卒業式のシーズンであったため、やや売上は上昇した。
繊維・同製品	その他の織物業	多品種・少ロット・短納期製品が続いた影響で生産効率が低下し受注も減少している。このような厳しい状況が続く中、売上を伸ばせる分野を模索して実行している組合員もいるが、廃業・休業している組合員もいて産地として深刻な事態となっている。
	織物業	絹分野では海外激安製品の圧迫が更に強まり、多品種・極少ロットの発注に終始し、繭の出来不良により生糸が高騰し、原料高、製品安の状態に陥り、過去の幾多の困難より増して厳しい状況で推移している。合繊分野では創造性・企画力を備え、少ロット・短納期に対応し、ブランド品等の厳しい品質要求に応えられるカーテンやマイクロ繊維など差別化織物分野で受注を確保している。トレンドをうまく捉え比較的好調な企業も見られますが、総じて高品質対応と低コストの強い要請、開発費の増大等から採算が厳しいまま推移している。あと一部地域ではあるが、景気の回復基調の波及効果により売上が好転しているところが見られるようになった事が全体として少し明るい材料である。
	ねん糸製造業	ナイロンを中心にしたスポーツ衣料及び車輛関係並びにエアバッグ等には依然と根強い需要があるものの、長繊維衣料分野においては依然として縮小均衡の過程を辿り、特に婦人衣料は大きく減退し、先行き長期低迷を余儀無くされる極めて厳しい状況下にある。
	その他の織物業	各卸商社が受注展示会の準備に入っている。
	ニット生地製造業	春は年間の販売の大部分を占めるのだが、学校衣料関係の編み立て生産が例年より早く切り上がった事や寒さが長引き春物衣料の動きが鈍った事により生産は余り冴えなかったとの事である。
	その他の織物業	3月度は前年同月に比べ20%売上が落ちた。今期は収益の悪化が止まらなかった。今後もこのような厳しい状況が続くものと思われる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	売上高の増加といっても微増。不当材の単価の低迷が販売価格に表れている。
	製材業、木製品製造業	3月度は例年であれば需要が出てくるのだが期待外れに終わった。今後は経費の節減等による原価圧縮や何らかの販路拡大を計らなくてはならない。
窯業・土石製品	砕石製造業	3月の組合取扱い数量は対前年同月比生コン向けで2.2%減少したものの、アスファルト合材向けで42.1%増となり全体量でも6.8%増加となった。平成17年4月～平成18年3月の出荷トータルでは対前年同月比生コン向け4.0%減、アスファルト合材向け5.7%減、全体出荷量4.3%減となった。また設備操業度も対前年同月比11.3%減となった。更に平成18年度においても需要の減少が続く中、協業化やプラントの集約化を更に推進していく。
	陶磁器・同関連製品製造業	組合員の減少が進み、各組合単位での今後の運営や在り方について検討が行われている。卸組合が中心となり5月に開催される茶碗まつりに向けて取組みが進められている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、3月末現在で前年同月比95.7%とマイナスの出荷量となった。地区状況は先月と同様に南加賀、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾地区がプラスとなったものの金沢、能登地区はマイナスで推移した。官公需、民需では官公需は相変わらず厳しく、民需が活発に推移している。17年度は全地区においてマイナスであった。今年度も前年以上の厳しさが続くのではないかとと思われる。
	粘土かわら製造業	天候不順の為、売上が前年同月比10%程減少している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年3月分)

鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	組合員企業の新入社員の合計は69名であり、昨年度も58名の新入社員を採用した事からいかに活況であるかがわかる。中国へ進出している企業も3社あるが、本社以上に業況は伸びているとの事。これらの数字が本社の全体的な売上に貢献しているとの事。
	鉄素形材製造業	平成17年度は鑄造の値上げ運動が理解され、そして自動車産業をはじめとして工作機械・建設機械及び産業機械等の好調に支えられて鑄造業界も活況のうちに推移してきた。これを生産量で見ると全国的には430万トンで前年対比4.9%増となり、石川県では5.6%増の29千トンとなった。このような好況は今後も続くものと思っているが、ユーザーニーズの多様化により当業界もニーズに応えられるような技術力を備えるために研修会等を開催し、レベルアップを図っていかねばならない。
	鉄素形材製造業	前月同様変化は生じていないが、前年度に比べ売上高及び収益面において改善されているとの事である。
	機械器具の生産	K社の増産計画に合わせ、各企業ともフル稼働の状態である。ただ、従業員不足の問題から、2交代勤務制を採用したり、残業が増える等の問題が生じている。この影響により外国人研修生労働者の受入に依存する傾向が見られるようになった。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	先月に引き続き、建設機械・工作機械の好調は続いている。それに反映する形で下請け企業も含め全体的に堅調に推移している。この好景気は3~4年は継続すると言われているが、石油や鋼材等の資材価格が高騰傾向にあり、一抹の不安がある。日銀の量的緩和政策も今後の景気を左右するのではとも考えられる。
	繊維機械製造業	当組合の主要得意先メーカーの生産は、工作用機器は一昨年からの好調を維持しており、繊維機械も3月から回復し、当面は順調に推移するものと思われる。建設機械、工作機械、各種産業機械向けの仕事も好調が続いており、工場の増設や設備機械の更新・増設の動きが広がっている。このため中小企業の資金需要が増大している。
	プレス、工作機械	機械金属業界全体は大きな変化も無く依然として好調である。工作機械業界は一時的に自動車関連からの受注が減少するが秋口には回復するとの事。納期に関してはさらなる短縮を迫られている。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	金融市場の不良債権処理も一段落し、業界再編の動きが加速し、総合需要が増加している。
	機械金属、機械器具の製造	特別な変化は無く高水準の操業を維持している。3月期末ということもあり、売上高が上昇したようである。先行き期待感もあり生産設備や人員の増強が見られる。工場稼働中の組合行事への参加が困難になる位の繁忙振りの所も随所に見られる。在庫を極力減らし、低コスト生産と厳しい納期対応に追われている。
その他の製造業	漆器製造業	伝統的な木製漆器、樹脂製の近代漆器ともに前年対比10%前後のダウンと思われる。特に近代漆器の素地成形メーカーには厳しい状況が続いており設備操業度が低下している。木製の組合カタログも納期の関係で年度末の大口記念品需要を他業界に奪われるなど苦戦している。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	収益状況については判断し兼ねるが、好転しているようには思えない。政府は景気の回復を謳っているが感じられない。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高の減少が続いている。
	一般機械器具卸売業	最近年度末の需要はあまり見込めなくなっている。官公庁関係の公需がほとんど無く、相変わらず苦戦している。その影響で電気工事店の倒産も発生している。新年度に入っても見込みは無く建設業関連は大変である。住宅関連も今一つ伸びが無く良い材料は何も無い。
	燃料小売業	3ヶ月連続仕入高にもかかわらず末端価格への転嫁は不十分である。4月も仕入高がアップで4ヶ月連続となるので過去の未転嫁分を含め値上げは必至である。
	機械器具小売業	平成18年3月は各販売会社主催の個展等により売上の増加を目指したが、液晶・PDPテレビの売れ筋商品の品不足が目立ち売上が押し上げる事が出来なかった。また新製品の影響から量販店の在庫品の処分が発生し価格の下落を招いている。冷蔵庫等白物家電品の動きも良くなく、地域店ルートでの需要は95%と見込まれている。液晶・PDPテレビの新製品販売と7月から始まる地上デジタル放送開始による需要に期待したい。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年3月分)

非 製 造 業	小売業	男子服小売業 婦人・子供服小売業	冬物の完全切り上げから春物商品へと移行したものの気温が上昇せず苦戦したが、春の催事セール等を行い何とか前年並みの実績を確保する事ができた(対前年同月比100.2%)。
		鮮魚小売業	今月は月の半分が天候不良等から入荷量の少ない日が多く、魚価が全般的に強含みとなっていた。業況も横ばいや減少といった声が多くなっている。
		他に分類されない その他の小売業	3月下旬の春休みに雪が降り、平成17年度は最後まで向かい風で終わった。
		百貨店・総合スーパー	3月の売上は予算比95.3%で前年比107%と好調であった。一部催事売上が900万円ほどあったが、それを除いても前年比102%と前年をクリアした。特に月の前半が良かった。個別店では37店舗中24店舗が前年をクリアした。当専門店街は4月から3月が1年という形になっているので、年間というスタンスで見ると、衣料(呉服込み)106.1%、服飾・貴金属100.4%、生活雑貨97.7%、食品96.5%、飲食96.9%、サービス100.7%、専門店計で100.7%と3年振りに前年をクリアした。個別店では14店舗が前年をクリアした。
		米穀類小売業	3月度は前年より微妙に売上げが増となったが、例年比では約2割減少となった。生産者からの縁故米(直売含む)も減少に転じている。安全・安心な米を仕入れ、消費者が求めている美味しい米を提供し、売上げを伸ばしたい。近年、後継者不足及び売上減による廃業者が目立っている。
	商店街	近江町市場	平成18年度はイベント等を行い集客に努め、景気が回復しているという実感が湧くように頑張っていきたい。
		尾張町	ここ数年の傾向だが、年度末だからといって取り立てて忙しいわけでもなく、たんと普通の月のような状態のままに過ごされる傾向にある。ただ、今年は雪が例年になく早く降り出し、かつ3月末まで降り続くといった長期に渡る積雪で、お客さんが買い物を用意する傾向があったように感じられる。季節商品もそのために販売のタイミングがつかめずもう一つ売上増にならなかったともいえる。
	サービス業	旅館、ホテル	3月は大学受験のための宿泊のより若干売上が伸びた。ただ駅周辺に大手ビジネスホテルの進出や出店計画による影響で価格競争が生じており大変危惧している。
		旅館、ホテル	大雪による影響、風評被害により前年度に比べ売上はマイナスで推移している。春以降の巻き返しを図りたいが、4月から7月にかけてはオフ期に突入するため厳しい状況は続くものと思われる。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比3.1%増、前月比50.8%増。新規検査状況は、前年同月比0.2%減、前月比80.0%増で推移している。
旅館、ホテル		景気は回復傾向にあると言われるもののレジャーの多様化が進み、売上、個人消費ともに低迷している。また、旅行形態はますます個人型化が進み、宿泊客の大きな伸びは無いと思われ、先行き楽観視出来ない状況にある。新規旅館や既存旅館ともに宿泊人員は僅かながら対前年を上回って来ている。これは、旅館や商店、漆器産業、地域の人々が一体となって頑張っている現れと思われる。	
建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比25.6%減となった。内訳として民間土木は73.8%増、民間建築は70%減となった。公共土木は3%増、公共建築は34.7%増となり公共としては6.8%増となった。	
	鉄骨・鉄筋工事業	稼働率は前年同月比90%。地域間及び企業間において格差があるものの、人手不足が続いており、相変わらず忙しい状況である。	
	板金・金物工事業	3月中旬以降、豪雪で傷んだ雨樋や壁面の工事が徐々に見られるようになったが、木造注文住宅の減少には歯止めがかからない状況が続いている。収益面での悪化や組合員の離職により脱会者も止まらない。今後もこの業界を取り巻く環境はさらに厳しくなるものと予想されている。	
運輸業	一般乗用旅客自動車運送業	規制緩和の影響により競争が激化し、廃業を余儀無くされる組合員が増えてきた。	
	一般貨物自動車運送業	売上は前年同月に比べ増加しているが、軽油価格が1リットル当たり17~18円(20%以上)値上がりしており、コストアップ分を荷主に転嫁出来ないため収益状況は極めて厳しくなっている。また、景気の回復と共にドライバーの確保が難しくなっている。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
小売業	燃料小売業	道路特定財源の一般財源化反対。